自走枠の導入に態度決定

反対闘争すすめる

問題多い払採炭合理化

〈中央委員会〉

この五日開催した中央委員会（荒尾市公会堂）は、中央情勢、前島裁判における勝訴、福利闘争情況、労金預け入れ、健保問題、遺族会再編成などに関する報告を承認したあと次の諸件を決定した①総選挙総括、②地方選挙闘争方針、③払採炭合理化について、④暫定予算、⑤玉名市長候補（橋本二郎前市長）推せん、その他。

とくに重要な決定は「払採炭合理化（シールド自走枠の導入）」反対闘争についてであるが、とりあえず三池労組は、春闘・CO闘争と結合をはかりながら、意志統一のもとに職場のたたかいを強め、反対闘争をすすめることになった。ただ、具体的なたたかいの組み方は、十分な意志統一をはかりながら、情勢の発展に応じて決定してゆく。

（なおこの問題については、関係記事参照のこと）

四山二分会集会で

新労組員・職員ともよく話し合って……

シールド自走枠導入をひかえて四山指導部第二分会（職種は払採炭、分会長竹金義さん）は集会をひらき意志統一をしたが、その中でつぎのような意見がつよく出された。

――会社は自走枠導入で採炭工を配転しようとしている。機械の回収や掘進などにあまった人をいかせようとしている。三池労組は払採炭の名儀はとるな。賃下げは認めないという対置要求をつきつけ闘おうとしているが……。

――対置要求もよいが話し合いでは取れんゾ。ストを構えながら、おれは払採炭じゃけん、こげんして弁当もってきよる。払採炭以外は絶対せんという構えを一人ひとりがつくろう。

――いままでは三池労組がいたから新労組員も甘い汁をすっていたが、こんどは新労組ぐるみのハネ出しだ。抵抗できない新労組員は、配転されるなら辞めるという青年も多い。新労組の山下組合長は「五年後には三池労組はなくなる」と豪語したが、この調子なら新労組の方がなくなるのではないか？

採炭以外は絶対せん

辨当もってじっくり構えよう

転員もゲチこぼす

――新労組員ばかりでなく職員も坑内では、「自分の異動も二、三日前にしかわからん。ホッホ仕事しても金は少なかし、仕事せん上の方だけは多い」とか、「職員組合は組合じゃなかですもんね」とか、「三菱などはちがうそうだ」と、われわれに公然と話すようになった。

配転は当然と新労組幹部

――新労組の幹部は職員より悪質で、会社のようだと組合員はいっている。ある新労組員は幹部に質問したら、「出勤の悪い人を自走枠の切羽からハネ出すのだ。出勤の悪い人は金受けが少ないから、ハネ出されてもそう変らんからいいだろう」といったそうだ。

――新労組の四山支部には各職場の請負給の高を表にしてつけ出しており、金受けが少ない職場には、「お前たちは仕事が少ないのではないか、他の職場はもっと金を受けよるぞ、おかしいぞ」と文句を執行部からいわれている。いまでは払採炭の新労組員は、こんな状態なので月に三十方も必死で出勤している人もいる。もう地獄だ。

新労組員の中には「幹部は職場に帰るときにいい職場を会社に保障させるために、何でもハイハイいいよる」とカゲロをいう人もいる。

新労組員の気持も結集して

――会社は今年から三百名ずつ新規採用をはじめる。新労組員はドンドンやめている。だから今度は新労組員をまきこんだたたかいをつくりあげていかなければならない。「採炭からははなれんぞ」ということをいまのうちに話しかけておこう。

――以前はすぐ「係員の指示に従うかどうか」と迫ってきた職員も、ZD運動ということで、いまでは何をいってもニコニコわらって強いことはいいきらん。いまがチャンスだ。

早くも四人殺さる

赤峰さん（新労組員）落盤の下敷に

この十四日、落盤によって新労組員の赤峰幸広さん（三十四才の払採炭工、緑ケ丘社宅桧町）が死亡した。医師の診断によれば文字通り「圧迫死」で、「右下腿断創、左前博部挫創、右鼓膜発裂」となっている。

場所は三川鉱（鉱長＝織田亮三郎）本層三十六右六片上段払の終炭下で、落盤はその日の午後一時四十分ごろ発生した。

午後一時三十分ごろといえば、三池労組員は作業を終了し昇坑準備にかかっているころで、赤峰さんは、その刻終炭のパンツア・コンベアーの移転を終り、押さえ柱をうとうとしているとき断層ぎわが落盤、その下敷となったものである。

今月の三日に、ベルトにまきこまれて施設主席係員の石井勝彦さん（四十七才、市内白金町小川アパート）が死んだのにひきつづいたこの死は、今年にはいってからすでに四人目の犠牲。まさに職場でいわれているように、「五千人で日産二万トン体制の確立へ、強引にもってゆこうとしている三井の手で殺された」わけで、たとえ組織こそ違え許すことのできないことである。

これは、荒川区役所（東京都内）まなぶ友の会発行の〝第7回三池にまなぶ会〟報告集です。このほかにも〝まなぶ友の会 神奈川県 連合協議会〟発行の同様報告集や、いろんな人々から寄せられた便りなどたくさんです。

聞こえくる〝こだま〟

学ぶ会の成果力強く

〝第七回三池に学ぶ集会〟が大牟田で開かれてから早や三カ月が過ぎたが、いまやその影響が全国各地から力強いこだまとなってはね返ってくるようになった。

学ぶ会に参加した若者たちの手で、各地の職場や地域で三池報告会がすすみ、あるいはカンパを集めて報告文集を編集しては、三池との連帯を強め、たたかいを強めるために手をにぎろうと呼びかけたり、七〇年の今年はことのほか活発な動きを見せている。

中には、三池から帰るとさっそくCO患者守る会の組織に積極的に乗り出している人さえいる。

三池労組員にとって心強いことだというほかないが、ここにCO守る会の組織活動に乗り出した菅野逸雄さんの便りを、感謝の意をこめて紹介しておこう。

守る会運動を始めています

菅野さんの便り

前略、寒かった三月も過ぎ去り四月に入ってやっと春らしい、ポカポカと暖い日を迎えました。三池の方はどうですか。

「第七回三池に学ぶ会」では、いろいろとお世話になりまして、ありがとうございました。こちらへ帰ってきてから、職場の仲間や地域の青年を集めて報告会をもち、三十八年の大爆発なども報告し、またCO守る会が全国的に組織されているから、ということでみんなにも加入を進め、十名の加入を獲得しました。（他に僕ともう二人は三池現地で加入のため、合計十二名）

加古川、高砂にもCO守る会をつくるため、神戸CO守る会とも二回ほど会い、いろいろアドバイスを受け、また先輩の助けもかりながら準備を進め、近々に「加古川・高砂地区CO患者守る会」として発足の予定です。

今日さしあたって十名のCO守る会費を送りますが、神戸CO守る会の方から聞いたのですが、還元金の百円は先に取っておいてもよいと聞きましたので、「全国CO守る会」の会費として五千円送りますから、よろしくお願い致します。

会則、役員名は、全会員の承認を受け次第後日送らせてもらいます。

×　×

なお菅野逸雄さんのお住まいは「兵庫県加古川市尾上町今福六百八番地」です。

組合員・主婦の皆さん、こうして三池の火が全国各地に広がってゆきます。それぞれ活動家の方々の労苦は、大変なことです。このような人々と、固く連帯を結んでゆくために、便りを出し合いましょう。おねがいします。

数十万人参加

ベトナム反戦

【KNA】アメリカで四月十三～十五日、「ベトナム戦争終結のための新・全国動員委員会」など三団体の主催でベトナム反戦行動が行なわれ、ニューヨーク、ワシントンなど各地で数十万人が参加した。十五日は所得税申告の締め切り日であるため、「税金を戦争に使わせるな」が中心スローガンとなり、ベトナムからの全米軍の撤退を呼びかけた。ことしの米国の反戦運動は、ベトナム戦争が国民生活にどんな影響を及ぼしているかを具体的にあばき出す地道な宣伝活動に力を入れているのが特徴。十三日から各地で「平和のためのハンスト」も行なわれ、三日分の食費をベトナム難民救済にカンパする運動やユナイテッド・エアクラフト社など戦争でぼろもうけしている軍需独占資本の株主総会に「戦争協力をやめろ」と抗議のすわりこみをするなどの行動も展開された。

〝玉名守る会〟発足

住みよい地区づくりへ

去る四日かねてその準備がすすんでいた〝玉名CO守る会〟はいよいよ結成に成功し「三池のCO患者や遺族を生き証人として守りながら、すべての職場から職業病を無くし地域からあらゆる公害をなくし、住民の生命と健康を守り、明るくて住みよい地区をつくる」（会則から）ことを目指し、ただちに活動を開始した。

玉名守る会の会員は現在のところまだ三十人たらずであるが、これからは積極的に会員の獲得に乗り出してゆくという。

それでもその活動は困難なものには相違ないが、しかし同会の決意は次の「訴え」にありありと示されている。

「今日私たちの命と健康は、恐るべき危機に直面しております。一瞬の後に、はたしてどのような事態が待ちかまえているか全く予測し難く、あらゆる場所、あらゆる時間に人間が傷つけられ、次々に人の命が奪いつづけられています。

体制的な合理化が国のすみずみまでも包み、あらゆる産業と企業、一切の政治機構や自治体行政などを通して伸びてきた独占資本の手は、いまや全国民に襲いかかっているのです。今日ほど人間の命が踏みにじられた事実は、過去にはありません。

玉名CO守る会は、この現実を許すことができません」

なお、会の先頭に立ってすすむ役員を紹介すれば次の通り。（敬称は略させていただきます）

顧問
橋本二郎（前玉名市長）
坂口暢（社会活動家）

会長
上田梅次（前玉名市議）

副会長
中村山人（熊本県教組城北支部前委員長）

事務局長
村田義晴（三池退職者）

幹事
中川募（玉名地評事務局長）
蓮尾実次（三煉労組員）、山村克己（全農林労組玉名分会）、山下寿文（全九電玉名分会青年部長）、飯塚英雄（三池労組員）